

公開・非公開の別

公開 部分公開

非公開

浜松市障がい者自立支援協議会 西・南エリア連絡会

第3回全体会 会議録

1 開催日時 令和3年3月11日 午後3時から午後4時25分

2 開催場所 南区役所 3階 大会議室 (Web会議併用)

3 出席状況 ※敬称略

構成員	好生会三方原病院	大場拓弥 (Web)
	新津地区民生・児童委員協議会	澤根緑 (Web)
	相談支援事業所まど	鈴木宏幸 (Web)
	浜松市浜松手をつなぐ育成会	松井章子 (Web)
	あさぎり	仲安寛元 (Web)
	浜松自立支援センター (障害者相談員)	水島秀俊 (Web)
	可美地区社会福祉協議会	鵜飼愛子

事務局	浜松市西・南障がい者相談支援センター	後藤翔一朗
		古澤則仁
		森田能行
		長谷瞳
		横田佑輔 (Web)
	浜松市西区社会福祉課	安間俊弘 (Web)
	浜松市南区社会福祉課	稲葉友亮
	内藤淳	

オブザーバー	浜松市障がい者基幹相談支援センター	岸直樹 (Web)
		永田貴裕 (Web)

※欠席	(構成員)	
	四季の郷	袴田章彦
	ワークショップくるみ	袴田みや
	浜松市教育委員会指導課 (SSW)	長坂聖子
	(事務局)	
	浜松市西・南障がい者相談支援センター	山本恭子

4 傍 聴 者 無し（新型コロナウイルス感染拡大防止のため）

5 議 事 内 容

- 1 西・南エリア連絡会の構成について
- 2 西・南エリア連絡会の活動報告について
- 3 西・南エリア連絡会の来年度の活動について
- 4 西・南エリア連絡会のスローガンについて
- 5 浜松市障がい者自立支援協議会について
- 6 その他
 - ア 意見交換
 - イ 講評
 - ウ 次回開催について

6 会議録作成者 浜松市南区社会福祉課障害福祉グループ 内藤

7 記録の方法 発言者の要点記録

録音の有無 有・

8 会 議 記 録

1	開 会 司会	浜松市西・南障がい者相談支援センター
2	あいさつ	浜松市南区社会福祉課長 稲葉友亮
3	議 事	
	(1)	西・南エリア連絡会の構成について
	(2)	西・南エリア連絡会の活動報告について
	(3)	西・南エリア連絡会の来年度の活動について（資料に基づき、事務局より併せて説明）
	<質疑応答>	
	・福祉避難所については、皆が不安を感じている。市の広報では、障害者のことがあまり触れられていない。要支援者として、高齢者や病気の方等と全部ひっくるめて表現されている。避難所においても、障害特性に沿った支援が必要と思われる。エリア連絡会の活動を通して、福祉避難所における支援の課題について市協議会に伝えていきたい。	
	・和地地区のふれあい交流センター湖東で行われた、福祉避難所の訓練に参加した。DCAT（ディーキャット：災害派遣福祉チーム）も来ていた。この訓練は市としては3回目、市民の見学は初の試みだったが、いずれも評価している。次年度、エリア連絡会としてワーキンググループを整えることができれば、DCATともつながりを持ち、出前講座等で	

活用できるかもしれない。

- ・避難所は身近な課題。福祉避難所は場所が明らかにされていないし、全ての障害に対応できるのか疑問が残る。

→福祉避難所については、連絡会としても行政から説明を受ける機会を設け、皆で理解を深めたいと考えている。その上で、エリアの中で何ができるのか、話し合っていく。さらに、市協議会に提案していく課題があるかどうか、ワーキンググループにて検討していきたい。

- ・浜松市浜松手をつなぐ育成会には、各エリア連絡会の情報が入ってくるが、区によって独自性があり、取り組みにバラつきがある印象。また、エリアから市に提案する流れはあるものの、これまで、市としてのフィードバックが無い。ぜひ、市からのフィードバックを求めたい。

→確かに、エリアの取り組みは独自性が高く、報告も分かりづらい。来年度は、地域課題や困難ケース等に仕分けていくことで、今よりもわかりやすくなっていくと思われる。また、市からのフィードバックが無いというご指摘だが、市協議会企画会議の振り返りにおいても、報告ばかりで協議にまで至らなかったという課題の提起があった。今後は、工夫が必要と考える。

- ・授産製品のカタログ販売について、令和3年度の動きは。

→今年4月以降に、今年度の活動について事業所にアンケートをとり、活動の振り返りをする予定。

→コロナ対応を目的とするか、もしくは啓発を目的とするか、目的や手法の検討も視野に入れている。

- ・市協議会として、児童の権利擁護はどこに含まれているか。

→地域生活部会において、ワーキンググループ形式で取り組んでいる。今年度は、児童支援におけるアセスメントツールの作成を行った。また、医療的ケアを必要とする児童については、協議会の外に会議体を設置している。

- ・児童虐待における部会の取り組みはあるか。

→現時点では、部会としての設置は無い。障害者虐待については、市協議会権利擁護部会にワーキンググループを設置している。

- ・市協議会として、児童虐待には取り組まないのか。

→取り組まないわけではない。

→現状、児童虐待には取り組んでいないが、今後は個別ケースを通してエリアから提案をしていってほしいと思う。児童虐待は発達に応じた“縦連携”という点でハードルが高いが、取り組むべき課題と捉えている。

→西・南障がい者相談支援センターも要対協（要保護児童対策地域協議会）

に出席している。そこから、個別ケースを抽出することも可能。

(4) 西・南エリア連絡会のスローガンについて（事務局より説明）

構成員の皆さまの協力を経て、事務局として考案したスローガンは次のとおり。承認いただきたい。

<スローガン>

「つながりあって 南^{なん}でもやってみ西^{せい}」

→ 異議なし（承認）。

(5) 浜松市障がい者自立支援協議会について（浜松市南区社会福祉課より説明）

今年度、市協議会は再編され、それにより活動が非常に活性化した。市協議会の活動は、市のホームページによって議事録等が閲覧できる予定。

市協議会全体会は、令和3年度も年2回の開催を予定し、いずれも傍聴可能となっている。

また、市協議会のこれまでから現在に至る経緯について、市として資料を提示していく予定がある。そちらも、ぜひ参考にさせていただきたい。

<質疑応答> ※無し

(6) その他

ア 意見交換（構成員等による）

<主な意見>

- ・西と南が1つになり、圏域が広がった分、情報発信が難しいと思われる中、メーリングリストの取り組みは評価できる。今後の発信に期待をしている。
- ・とてもいい全体会、活動報告だと思う。コロナ禍でボランティアができなかったり、人に会えなかったりと活動が縮小している中、地区民児協（民生・児童委員協議会）でも、コロナ支援として授産製品の販売に協力した。小さなことから協力できるといい。
- ・コロナ禍により、当事者の社会活動が停滞したことが残念。コロナワーキングにおいて、授産製品販売がどのくらい当事者に還元されたか、社会参加を担保したかについて、検証願いたい。

- ・当連絡会にて培ったチームワークが、障害者虐待の対応においても有効に作用している。皆さまとコミュニケーションをとりながら、連絡会活動を進めていきたい。

イ 講評（浜松市障がい者基幹相談支援センターによる）

<要旨>

- ・コロナ禍において、連絡会が活動できていること自体が成果。
- ・連絡会の目的にネットワークづくりがあるが、コロナ禍で作りづらい状態にあった。そうした状況下でも、やれることをやっていく。まさしく、スローガンのとおり。
- ・ある研修において受けた印象として、「ネットワークや協働はできている」が、そこでは役割分担が明確で「割り切っている」とも映った。いわゆる、泥臭い協働ではない。
(ネットワークの在り方を考える上での、1つの例示)
- ・個別支援における課題解決として、ネットワークでその個人のために考えることがまず1つ。そこから、地域課題につなげていく。
- ・「当事者に返せているか（還元させているか）どうか」、それが評価の基準であり、全て。
- ・市協議会全体会、企画会議は、ぜひ注視していただきたい。
- ・市協議会部会の詳細も、基幹センターのホームページから閲覧することができる。ぜひ、知っていただきたい。

ウ 次回開催について（事務局より連絡）

新年度のスタートとして、令和3年度の第1回全体会を開催する。開催時期は、5月か6月頃を予定。全体会開催後には、今回と同様にネットワーク会議を開催する予定。